

令和8年度 後志地域づくり連携会議（岩宇・南後志ブロック）議事要旨

日時：令和8年7月6日（月） 13：00～15：00

場所：共和町 生涯学習センター 大ホール

出席者（構成員等）

島牧村長、寿都町長、黒松内町長、共和町長、岩内町長、泊村長、神恵内村長、きょうわ農業協同組合長、南しりべし森林組合長、岩内観光協会長、後志総合振興局長、小樽開発建設部長

議事

- （１）地域づくり推進ビジョンの進捗について
- （２）道央広域連携地域政策展開方針の進捗について
- （３）地域課題への対応状況について
- （４）意見交換
- （５）その他

意見交換　－後志で働く人を増やすための市町村の枠を超えた連携－

●島牧村 夏井村長

事業構想大学院大学と共同で、地域おこし協力隊として大学院に通いながら学び、卒業と同時に地域DMOを立ち上げて、観光体験事業を地域の会社として展開していこうという取り組みを始めた（大学院は、オンラインを活用して、島牧村サテライト拠点（道の駅内）で修学）。目標としては、１年間で10人の地域おこし協力隊を募集し、10年間で最大100人、会社も100社作って、1社あたり1,000万円の売上げで、10億円規模の企業を作ろうと始めている。

漁業者自身が個人的な取り組みで、外国人人材を募集している。行政的には、東川町の日本語学校と協力して、外国人介護人材の介護福祉人材育成支援協議会に参加し、介護人材を確保するよう推進している。実際に島牧村で働いている外国人は5人、結婚して家族がいる人もいるので、5人以上村に住んでいる。

●寿都町 片岡町長

漁師の担い手確保は、お試し体験により魅力を感じて長期的にやってみたいという若者がいる。それに対して町が支援して人材育成を進めており、一定の成果が出ている。一方で、水揚げ量は減少しているので、販売方法を考える必要がある。

歴史ある寿都町の神社仏閣を、人口が減る中でいかにして守り活かしていくか、住職などを含めて話し合っている。ストレスを抱えている方の心の再生基地としてビジネス化できないか。

●黒松内町 鎌田町長

路線バスも運転手不足により将来的な廃止が懸念される。南後志だけでは維持困難。北海道全体として、長崎県のような「交通局」を作り、地域の広域的な公共交通のあり方を積極的に考えていく必要がある。財源は、宿泊税を活用しながら、もっと広いエリアで運転手不足も含めて考えてもらいたい。

環境再生型農業を展開することで、農業や環境問題に興味を持っている方々を呼び込むなど、大学や企業と連携して新たな人材確保につなげていきたい。

●共和町 成田町長

自治体と農協が連携し、夏は農家、冬はニセコで働いてもらう取り組みをやったが、うまくいかなかった。外国人を含め、年間を通して後志地域で働けるよう、制度などの仕組みづくりが必要。

国交省の二地域居住、総務省のふるさと住民登録制度について、しっかり取り組み、推進を。

最終的に必要なのは住宅。移住のための改修は補助があると聞いた。公営住宅は 253 戸のうち 20 戸空いているが、自治体の判断で目的外使用が可能な制度にしてほしい。

教育が移住定住につながると考えている。職場は高規格道路を利用して札幌方面でも構わないが、子どもが育つ住まいは共和町や岩宇・南後志エリアに。そういう住み続けてもらえる取り組みが出来れば。

●岩内町 木村町長

後志地域は、特定の季節や場所に観光客が一極集中するオーバーツーリズムが深刻な問題。これを克服するためには、シーズンの分散（新たな魅力づくり）と広域への循環（二次交通整備とストーリー性のあるルート設定）などを、後志全域で役割分担することで、観光客による経済効果の長期持続を実現できるのではないかと考えている。それが労働者の確保に繋がると考えている。こうした取り組みを自治体単独ではなく、国や道に音頭をとってもらい連携して行う必要がある。

更に、国や道に客層の分析をお願いしたい。何を求めて来るのか（歴史、食、観光）、どのくらいの期間か（日単位、月単位）、どのくらいの費用か。実態を把握できれば、ターゲットに合わせた取り組みを進めることができる。

観光地のリアルタイムな情報発信が必要。後志は観光地情報が充実していて観光しやすいという環境を作れば、より選ばれる地域になっていく。

●泊村 高橋村長

各事業者は、北海道漁業就業支援フェアを活用して人材確保に努めており、外国人の受け入れにも取り組んでいるが、苦勞している。

町村会の採用試験も受け身の立場であるため、出来ることは、選んでもらえるようしっかり PR しここで働きたいと思ってもらうこと。後志全体で取り組むなら地域を知ってもらうことが必要。

昨年、旧営林署の建物を払い下げてもらい、移住体験住宅にしようと考えている。働く

場所は北海道型ワーケーションポータルサイトを活用し情報発信できるよう進めている。

●神恵内村 高橋村長

後志全体で、ハローワーク、自治体、事業者が連携し、人材バンクのような仕組みを作れたらいい。例えば1回登録すれば、後志管内どこでもOKのような仕組み。

数日から数週間ごとに地域を巡り働きながら旅をする人が増えていると聞く。そうした人たちに後志全体を循環してもらう仕組みができれば理想的。

今年、日本一子育てしやすい村を宣言した。子育て支援金として1人当たり月2万円渡しても働く場所が限られるので生活できない。働く場所が必要であり、神恵内に住んで、泊や岩内で働いてもらうなど、地域全体で住む場所と働く場所を分けて考えていければいい。

●きょうわ農業協同組合 石田代表理事組合長

農業被害の中で、鹿による被害が大きい。猟友会の皆さんは自分の仕事を持ちながら活動しており苦労している。高齢化対策も含め、専門的な人材を育成し、市町村の枠を超えて広域的に連携する体制を取っていく必要がある。極端な言い方をすれば、猟友会活動だけで生活できるくらいの体制が必要。

●南しりべし森林組合 志比川代表理事組合長

どの町村も防災に力を入れるよう国から求められており、蘭越町では、防災のため退官した自衛官を採用した。そこで、後志町村会などで防災の人材バンクを作ってはどうか。各町村で必要か把握し、人材バンクを通じてマッチングできれば良い。

防災のほか、建設業、福祉などさまざまな分野の人材も町村会が求人を取りまとめ、人材情報を登録し、各町村で活用できる仕組みがあれば良いのでは。

●岩内観光協会 福嶋会長

後志版カタログギフトを作れないか。全農山口で作っている。岩内町でも観光協会独自でできないか考えたが、負担が大きく厳しいので、後志全体で取り組めないかと考えていた。